

美川 圭教授 略歴・主要研究業績

略 歴

学歴

- 一九五七年三月五日 東京都港区麻布飯倉片町三二番地に生まれる
- 一九六九年三月 港区立麻布小学校卒業
- 一九七五年三月 私立麻布学園高等学校卒業
- 一九七七年四月 京都大学文学部入学
- 一九八一年三月 京都大学文学部史学科国史学専攻卒業
- 一九八三年四月 京都大学大学院文学研究科国史学専攻博士課程前期課程入学
- 一九八五年三月 同修了
- 一九八五年四月 同博士課程後期課程進学
- 一九八八年三月 同指導認定退学
- 一九九八年三月 京都大学より博士（文学）の学位を授与される

職歴

- 一九八七年四月 冷泉家時雨亭文庫目録調査員
- 一九九三年四月 摂南大学国際言語文化学部助教
- 二〇〇三年四月 同教授
- 二〇〇五年四月 摂南大学外国語学部教授（学部名変更による）

この間、立命館大学文学部、京都教育大学、大阪外国語大学（現大阪大学外国語学部）、京都大学医療技術短期大学部（現京都大学医学部人間健康科学科）、花園大学文学部、関西学院大学文学部に出講。

二〇一二年四月 立命館大学文学部日本史研究学域教授

二〇一三年度後期専攻主任 二〇一四年度後期学域長 二〇一五年度前後期専攻主任

二〇一六年度前期学域長 二〇一七年度後期専攻主任 二〇一八年度前期学域長

二〇一九年度後期専攻主任

この間、京都大学大学院文学研究科に出講。ケンブリッジ大学 FAMS (アジア中東学科) 客員研究員。

学会役員

京都大学文学部史学研究会『史林』編集委員、日本史研究会研究委員、同編集委員、同編集委員長、日本古文書学会評議員、同監事、同理事(現任)、京都大学文学部史学研究会評議員(現任)などを歴任。

諸組織委員

新修彦根市史委員、寝屋川市史委員、朝日新聞社冷泉家時雨亭叢書編集委員など。

主要研究業績

単著

『院政の研究』臨川書店、一九九六年十一月

『白河法皇中世をひらいた帝王』(NHKブックス) 日本放送出版協会、二〇〇三年六月(二〇一三年四月角川学芸出版より文庫化)

『院政 もうひとつの天皇制』(中公新書) 中央公論新社、二〇〇六年一〇月

『後白河天皇 日本第一の大天狗』ミネルヴァ書房、二〇一五年二月

『後三条天皇 中世の基礎を築いた君主』山川出版社、二〇一六年九月

『公卿会議 論戦する宮廷貴族たち』(中公新書) 中央公論新社、二〇一八年一〇月

『院政 もうひとつの天皇制 増補版』(中公新書) 中央公論新社、二〇二一年四月

編共著

『摂関政治から院政へ』（京都の中世史二）プロローグ、第一章、第五章、エピローグ
（第六章佐古愛己、第七章辻浩和）吉川弘文館、二〇二二年二月

共著・雑誌論文

- 「関東申次と院伝奏の成立と展開」『史林』六七―三、一九八四年五月、『院政の研究』に収録
「公卿議定制から見る院政の成立」『史林』六九―四、一九八六年七月、『院政の研究』に収録
「院政における政治構造」『日本史研究』三〇七、一九八八年三月、『院政の研究』に収録
「院政と平氏政権の関係はどうなっていたか」（『争点日本の歴史四 中世編』新人物往来社、一九九二年二月所収）
「院政をめぐる公卿議定制の展開―在宅諮問・議奏公卿・院評定制―」『日本史研究』三四八、一九九一年八月、『院政の研究』に収録
「公卿議定制の類型とその性格―坂本賞三・安原功両氏の批判にこたえて―」『史林』七四―六、一九九一年一月、『院政の研究』に収録
「研究史上の後白河院」（『古代学協会編 後白河院』吉川弘文館、一九九三年三月所収、一部が『院政の研究』に収録）
「院政と平氏政権を説明する」（『新視点日本の歴史』四、新人物往来社、一九九三年六月所収）
「平安時代の政務とその変遷」『古代文化』四六―一、一九九四年一月、『院政の研究』に収録
「平氏政権の意図したもの」（『歴史群像シリーズ 平清盛』学習研究社、一九九四年一月所収）
「寺社問題から見る院政の成立」（『上横手雅敬監修、井上満郎・杉橋隆夫編集 古代・中世の政治と文化』思文閣出版、一九九四年四月所収、『院政の研究』に収録）
「建武政権の前提としての公卿会議―「合議と専制」論をめぐる―」（『大山喬平教授退官記念会編 日本国家の史的特質』古代・中世、思文閣出版、一九九七年五月所収）
「鳥羽殿と院政」『日本史研究』四六〇、二〇〇〇年十二月
「平安時代における王の系譜と政治―保立道久『平安王朝』を読む―」（『系図をよむ 地図をよむ 物語時空論』（叢書 想像する平安文学：第七卷）勉誠出版、二〇〇一年所収）
「鳥羽殿の成立」（『上横手雅敬編 中世公武権力の構造と展開』吉川弘文館、二〇〇一年八月所収）
「定家と『明月記』」『茶道雑誌』六六―二、二〇〇二年二月
「中世成立期の京都―権門都市の成立―」『日本史研究』四七六、二〇〇二年四月
「貴族たちの見た院と天皇」（『王を巡る視線』岩波講座 天皇と王権を考える一〇）岩波書店、二〇〇二年十一月

- 「京・白河・鳥羽 院政期の都市」(元木泰雄編『院政の展開と内乱』(日本の時代史七) 吉川弘文館、二〇〇二年二月所収)
- 「崇徳院生誕問題の歴史的背景」『古代文化』五六―一〇、二〇〇四年一月
- 「後三条天皇 中世最初の帝王」(元木泰雄編『王朝の変容と武者』(古代の人物六) 清文堂、二〇〇五年六月所収)
- 「鳥羽殿と院政」(高橋昌明編『院政期の内裏・大内裏と院御所』文理閣、二〇〇六年六月所収、『日本史研究』四六〇の再録)
- 「院政と伏見」伏見稻荷大社『朱』五一、二〇〇八年二月
- 「折本と折紙―冷泉家時雨亭文庫蔵『朝儀諸次第』をめぐって―」『古文書研究』六五、二〇〇八年五月
- 「会議の日本史―古代から中世まで」『中央公論』一二三―一九、二〇〇八年九月
- 「上皇と院政―なぜ退位した天皇が権力をもつことができたか―」(近藤成一、ロベルト・ホレス、小路田泰直、デトレス・タランチェフスキ編『中世 日本と西欧―多極と分権の時代―』吉川弘文館、二〇〇九年八月所収)
- 「院政期の京都と白河・鳥羽」(西山良平・鈴木久男編『恒久の都平安京』(古代の都三) 吉川弘文館、二〇一〇年一〇月所収)
- 「中世前期の京都―その領域変化と特質―」(中世都市研究会編『都市のかたち―権力と領域―』(中世都市研究一六) 山川出版社、二〇一一年九月所収)
- 「『明月記』(藤原定家)―激動を生きぬいた、したたかな歌人」(元木泰雄・松蘭齊『日記で読む日本中世史』ミネルヴァ書房、二〇一一年一月所収)
- 「橋本義彦『平安貴族社会の研究』をどう読んできたか」『日本史研究』五九一、二〇一一年一月
- 「後白河院政と文化・外交―蓮華王院宝蔵をめぐって―」『立命館文学』六二四、二〇一二年一月
- 「特集史論 古代から中世への転換点 院政とはなにか」『歴史読本』五七―五、二〇一二年五月
- 「市沢著書から見た鎌倉期政治史の現状と課題」『歴史科学』二二二、二〇一三年五月
- 「王権と文化」(『週刊朝日百科 週刊日本の歴史 平安時代六 平氏政権の可能性』二〇一三年一月所収)
- 「藤原長家とその周辺」『しぐれ』一二八、二〇一四年四月
- 「文治三年十月九日源頼朝書状」『歴史読本』五九―九、二〇一四年七月
- 「後鳥羽院―万能の君の陥穽」(平雅行編『公武権力の変容と仏教界』(中世の人物 京・鎌倉の時代編 第三卷) 清文堂、二〇一四年七月所収)
- 「中世天皇の退位・讓位」『日本歴史』八四〇、二〇一八年六月
- 「摂関政治と陣定」『立命館文学』六六〇、二〇一九年二月
- 「前近代の「天皇退位」をめぐる論点の整理」『歴史評論』八三五、二〇一九年一月
- 「院政期の朝廷政務」『京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要』三四、二〇二一年三月
- 「院政・平氏政権と中世王権」(西山良平・勝山清次編『日本の歴史 古代・中世編』ミネルヴァ書房、二〇二一年六月所収)

書評・解題・自治体史、その他

- 紹介 森茂暁著『南北朝公武関係史の研究』『史林』六九―三、一九八六年五月
- 書評 五味文彦著『中世のことばと絵―絵巻は訴える』『史林』七五―四、一九九二年七月
- 「冷泉家に遺されたある没落貴族の系図」『しぐれてい』四三、一九九三年一月
- 冷泉家時雨亭叢書『豊後国風土記 公卿補任』解題（村井康彦・藤本孝一氏と共著）朝日新聞社、一九九五年五月
- 「鎌倉期公家政権の機構」『日本中世史研究事典』東京堂出版、一九九五年六月
- 「陣定―公卿議定制の展開―」『日本古代史研究事典』東京堂出版、一九九五年九月
- 書評 本郷和人著『中世朝廷訴訟の研究』『歴史学研究』六八八、一九九六年九月
- 冷泉家時雨亭叢書『朝儀諸次第 一』解題（中村利則・藤本孝一氏と共著）朝日新聞社、一九九七年二月
- 冷泉家時雨亭叢書『明月記 三』解題（藤本孝一氏と共著）朝日新聞社、一九九八年四月
- 冷泉家時雨亭叢書『古記録集』解題（村井康彦氏と共著）朝日新聞社、一九九九年四月
- 「一九九八年の歴史学界―回顧と展望―日本中世政治史」『史学雑誌』一〇八―五、一九九九年五月
- 冷泉家時雨亭叢書『朝儀諸次第 二』解題（中村利則・藤本孝一氏と共著）朝日新聞社、一九九九年六月
- 「本年度重要文化財指定 朝儀次第書」『しぐれてい』六九、一九九九年七月
- 「藤原定家『明月記』にみる有馬の湯」『日本歴史地名大系 歴史地名通信』四一、一九九九年一〇月
- 「時雨亭文庫の『明月記』 国宝指定をめぐる」『しぐれてい』七三、二〇〇〇年七月
- 冷泉家時雨亭叢書『明月記 四』解題（藤本孝一氏と共著）朝日新聞社、二〇〇〇年八月
- 「公卿補任」（『国史大系書目解題下』吉川弘文館、二〇〇一年一月所収）
- 書評 元木泰雄著『藤原忠実』『人環フォーラム』、二〇〇一年三月
- 『新修彦根市史 第五卷史料編 古代・中世』平安時代、彦根市、二〇〇一年三月
- 冷泉家時雨亭叢書『朝儀諸次第 三』解題（中村利則・藤本孝一氏と共著）朝日新聞社、二〇〇一年八月
- 書評 川端新著『荘園制成立史の研究』『史学雑誌』一一一―一、二〇〇二年一月
- 冷泉家時雨亭叢書『明月記 五』解題（藤本孝一氏と共著）朝日新聞社、二〇〇三年二月
- 冷泉家時雨亭叢書『朝儀諸次第 四』解題（中村利則・藤本孝一氏と共著）朝日新聞社、二〇〇四年四月
- 「明月記と貴族の日記」（『京都冷泉家『国宝明月記』図録』二〇〇四年一〇月）
- 「朝儀諸次第をめぐる」その一 卷子本と苦闘する」『冷泉家時雨亭叢書月報』六四、二〇〇五年二月

- 『寝屋川市史 第三卷 古代・中世史料編』中世史料編編集、寝屋川市、二〇〇五年三月
- 「朝儀諸次第をめぐって その二 ドラマに描かれた貴族社会」『冷泉家時雨亭叢書月報』六五、二〇〇五年四月
- 「朝儀諸次第をめぐって その三 二つの虚構―殿下乗合事件をめぐって―」『冷泉家時雨亭叢書月報』六六、二〇〇五年六月
- 「朝儀諸次第をめぐって その四 固関とは(一)」『冷泉家時雨亭叢書月報』六七、二〇〇五年八月
- 「朝儀諸次第をめぐって その五 固関とは(二)」『冷泉家時雨亭叢書月報』六八、二〇〇五年十二月
- 「朝儀諸次第をめぐって その六 折るといふこと(一)」『冷泉家時雨亭叢書月報』六九、二〇〇六年二月
- 「朝儀諸次第をめぐって その七 折るといふこと(二)」『冷泉家時雨亭叢書月報』七〇、二〇〇六年四月
- 「朝儀諸次第をめぐって その八 折るといふこと(三)」『冷泉家時雨亭叢書月報』七一、二〇〇六年六月
- 「朝儀諸次第をめぐって その九 折るといふこと(四)」『冷泉家時雨亭叢書月報』七二、二〇〇六年八月
- 「朝儀諸次第をめぐって その十 実務官人の世界(一)」『冷泉家時雨亭叢書月報』七三、二〇〇六年十二月
- 『新修彦根市史 第一巻通史編 古代・中世』五章、彦根市、二〇〇七年一月
- 「朝儀諸次第をめぐって その十一 実務官人の世界(二)」『冷泉家時雨亭叢書月報』七四、二〇〇七年二月
- 「朝儀諸次第をめぐって その十二 実務官人の世界(三)」『冷泉家時雨亭叢書月報』七五、二〇〇七年四月
- 「朝儀諸次第をめぐって その十三 実務官人の世界(四)」『冷泉家時雨亭叢書月報』七六、二〇〇七年六月
- 「朝儀諸次第をめぐって その十四 実務官人の世界(五)」『冷泉家時雨亭叢書月報』七七、二〇〇七年八月
- 「朝儀諸次第をめぐって その十五 実務官人の世界(六)」『冷泉家時雨亭叢書月報』七八、二〇〇七年十二月
- 「朝儀諸次第をめぐって その十六 実務官人の世界(七)」『冷泉家時雨亭叢書月報』七九、二〇〇八年二月
- 『寝屋川市史 第一〇巻 本文編』古代第三章第四節、中世第一章第一―三節、第二章第一、二節、第三章第一節、寝屋川市、二〇〇八年三月
- 「朝儀諸次第をめぐって その十七 実務官人の世界(八)」『冷泉家時雨亭叢書月報』八〇、二〇〇八年四月
- 「朝儀諸次第をめぐって その十八 実務官人の世界(九)」『冷泉家時雨亭叢書月報』八一、二〇〇八年六月
- 「朝儀諸次第をめぐって その十九 儀式と政務の空間(一)」『冷泉家時雨亭叢書月報』八二、二〇〇八年八月
- 「朝儀諸次第をめぐって その二十 儀式と政務の空間(二)」『冷泉家時雨亭叢書月報』八三、二〇〇八年十二月
- 「朝儀諸次第をめぐって 最終回 儀式と政務の空間(三)」『冷泉家時雨亭叢書月報』八四、二〇〇九年二月
- 書評 丸山仁著『院政期の王家と御願寺―造営事業と社会変動―』『史学雑誌』一一八―七、二〇〇九年七月
- 書評 藤本孝一著『中世史料学叢論』『古代文化』六二―一、二〇一〇年六月
- 書評 山田邦和著『京都市史の研究』『歴史評論』七三六、二〇一一年八月

書評 栗山圭子著『中世王家の成立と院政』『女性史学』二三、二〇一三年

「二〇一二年度の歴史学界―回顧と展望―中世一総論・史料」『史学雑誌』一二二―五、二〇一三年五月

「清盛・平家とその時代 第一章 清盛の生きた時代①平安時代末期の京都―平清盛の育った都市」『京都民報』二〇一二年一月一五日

「清盛・平家とその時代 第一章 清盛の生きた時代②院政とは何か」『京都民報』二〇一二年一月二二日

「清盛・平家とその時代 第一章 清盛の生きた時代③祖父正盛の登場」『京都民報』二〇一二年一月二九日

「清盛・平家とその時代 第一章 清盛の生きた時代④院近臣の立場と清盛落胤説」『京都民報』二〇一二年二月七日

「崇徳上皇出生の謎は真実か」『京都新聞』二〇一二年二月二七日

「大河ドラマの真実「皇子」の噂は清盛自身から」『産経新聞』二〇一二年六月五日

書評 山田邦和著『日本中世の首都と王権都市―京都・嵯峨・福原―』『京都民報』二〇一二年八月二六日

書評 高橋昌明著『平家と六波羅幕府』『京都民報』二〇一三年四月二八日

「平安後期の都市 京都」『創造する市民』一〇一、二〇一三年七月

書評 高橋昌明著『平家と六波羅幕府』『新しい歴史学のために』二八五、二〇一四年一〇月

書評 高橋昌明著『武士の日本史』『京都民報』二〇一八年六月二四日

取材記事「定家による古典写本の意味」『京都新聞』二〇一九年一〇月二五日

取材記事「史書を訪ねて 愚管抄 崇徳敗れ武者の世招く」『読売新聞』二〇一九年一月二六日

「解説 貴族政治制度史研究の極致」(橋本義彦著『平安貴族』平凡社、二〇二〇年五月所収)

「源頼朝書状」(日本古文書学会編『古文書学への招待』勉誠出版、二〇二二年二月所収)

書評 高橋昌明著『都鄙大乱「源平合戦」の真実』『京都民報』二〇二二年二月二六日

「道長のふたりの妻」『本郷』吉川弘文館、二〇二二年一月

口頭学会発表(主たるものに限る)

「鎌倉期公家政権に関する一考察―伝奏・関東申次を中心に―」(日本史研究会中世史部会、一九八二年四月)

「院政における公卿議定について」(日本史研究会中世史部会、一九八五年四月)

「議奏公卿制について」(日本古文書学会第一九回学術大会、一九八六年七月六日)

「院政における政治構造」(日本史研究会一九八七年度大会、一九八七年一月一五日)

「佐藤進一氏の「合議と専制」論をめぐって」(読史会大会、一九九五年一月)

- 「鳥羽殿と院政」(第一〇回平安京、京都研究集会 シンポジウム『鳥羽殿をめぐる歴史空間―政治・交通・文化―』、一九九九年二月二三日)
- 「中世成立期の京都」(日本史研究会二〇〇一年度大会 シンポジウム、二〇〇一年一月)
- 「上皇と院政―なぜ退位した天皇が権力をもつことができたのか―」(国際会議『中世 多極と分離の時代―日本では?そして西欧では? ドイツ・ボン大学、二〇〇四年二月一七日)
- 「中世前期の京都―その領域変化と特質―」(中都市史研究会第一六回研究集会『都市のかたち』岩手県平泉町、二〇一〇年九月五日)
- 「市沢著書から見た鎌倉期政治史の現状と課題」(大阪歴史科学協議会二〇一二年三月例会、三月二二日)
- 「日本の中世都市の構造―政治と文化・宗教」(日本学術振興会『頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム』シンポジウム 大阪市立大学文学部創設六〇年記念 東アジア都市における集団とネットワーク―伝統都市から近代都史への文化的転回―、二〇一三年二月六日)
- 「天皇の譲位の歴史」(ケンブリッジ日本人会例会、英国ケンブリッジ大学、二〇一七年二月五日)
- 「天皇の譲位の歴史」(十色会 Cambridge university Japanese interdisciplinary Forum 英国ケンブリッジ大学、二〇一七年三月一八日)
- 「国際コミュニケーションの意味Ⅲ:天皇退位の意味をどう世界に語るのか―日本中世史研究者の祝座」(愛知大学国際コミュニケーション研究科開設一五周年記念ワークショップ「国際コミュニケーションの意味」、二〇一八年一月二七日)
- 「藤原定家と中世貴族社会」(ケンブリッジ日本人会例会 Zoomにて日本と英国結ぶ、二〇二〇年一月一日)
- 「貴族はいかにして生き残ったか―俊成・定家と冷泉家―」(国際日本文化研究センター共同研究『貴族とは何か、武士とは何か』、二〇二二年一月九日)